

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆さま方には、健やかに爽やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は、米国発の世界同時不況など暗い話題が続きました。今年こそは良い年でありたいと念願しております。

さて、現在、当院は146床を有し、内科、整形外科、循環器科、リハビリテーション科、小児科、脳神経外科の診療科及び血液透析、人間ドック、各種健康診断などを行っています。現在医師数は、内科3名、外科2名、整形外科1名で、小児科、脳神経外科は非常勤医師に頼っているような現状です。

一昨年12月、公立病院改革ガイドラインが発表されました。主に、公立病院の役割の明確化、経営の効率化、再編、ネットワーク化、経営形態の見直しなどがポイントに示されてきました。昨年より、中央病院内でも院内改革委員会を設け、自らできることに取り組んできました。

第一に、阿蘇中央病院は、阿蘇市を中心とした医療圏における中核病院としての役割を担うことです。このためにも、医師の確保、



医療技術の向上、医療機器の整備充実を図り、住民の皆さまに責任を持って医療を提供したいと思っております。

阿蘇中央病院長 湯本信也

第二に、救急医療機関として、二次救急医療の充実を図りたいと思っております。平成19年の救急搬送患者は総数2942人、うち、阿蘇管外への搬送が1410人でした。当院では、616人を受け入れており、今後も住民の高齢化、一人暮らしの高齢者の増加もありますので充実させ、救急については、三次救急医療機関（熊大や日赤など）や地域医師会との緊密な連携をとり、地域完結型医療を目指したいと思っております。

第三に、交通手段のない高齢者や動けない高齢者など、在宅での医療を希望される方々のため、訪問診療を充実させていきたいと思っております。

第四に、経営の効率化として、病床数の適正化、診療科の見直し、看護体制の見直しを行い、また、当院と波野診療所間が情報の共有化を図り、薬品、材料の共同購入などを進めていきたいと思っております。

第五に、経営形態の見直しについてですが、職員一人ひとりが旧態然とした親方日の丸的な考え・態度を捨て、さらに、地方公営企業法の全部適用を視野に入れ、責任を明確化し、経営の安定化を図りたいと思っております。最後に病棟の建て替えについて、佐藤義興市長が「阿蘇中央病院建設推進懇話会」をつくられました。私たちもこの懇話会に参加し、一刻も早く地域住民の皆さまにより良い医療が提供できるように努力したいと思っております。本年も阿蘇中央病院に対しまして、「ご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。」

一の宮中学校ALT ハンナ スミスさんの

ALT(英語指導助手)活動日誌



あけましておめでとうございます。

日本に来て初めてのお正月を阿蘇で過ごすことができました。

日本に大晦日やお正月があるように、アメリカにも3つのめでたい日を祝う時期があります。11月第4週の日曜日の「感謝祭(Thanksgiving Day)」に始まり、クリスマス、新年を祝うまでの6週間は私の最も好きな時期です。多くのアメリカの家族(親戚)は国内に散らばって生活しています。大部分の人々にとって、仕事を1週間以上休み、家族全員と会うことができるのは1年のうちでこの時期だけかもしれません。だからこの時期はアメリカの家族にとって、とても重要な時期なのです。

中でも感謝祭とクリスマスの祝日は食事が大切な日でもあります。多くのアメリカ人はこの両方の日に家族とともに饗宴を開きます。知られているとおり、この日に七面鳥を食べることは伝統です。

家族が互いに向かい合い食事をし、祈りをささげ、やがて新年を迎えることができるこの時期は、アメリカ人にとって幸せで素晴らしい時期です。

幸運にも、私は阿蘇で素晴らしい「つながり」を見つけ、それは私が家族とともに休暇を過ごせないさみしさを和らげてくれました。ありがとう！今年もよろしくお祈りします。

一の宮中学校ALT ハンナ スミス

